特別支援学校（視覚障がい領域）専門問題例

例１　次の図１は網膜上における視細胞の分布状態を，図２は網膜の部位と視力値との関係を表したものである。このことについて，下の(1)・(2)の問いに答えなさい。

図１

この部分につきましては，
著作権の問題により公開できません。

図２

この部分につきましては，
著作権の問題により公開できません。

(1) 図１の①，②の細胞名とそれぞれの働きを書きなさい。

(2) 図１，図２をもとに，次の(a)・(b)の疾患について，視細胞の分布と見え方の特徴を関連づけてそれぞれ説明しなさい。

(a) 網膜色素変性症

(b) 黄斑変性症

(H28)

例２　一般に乳児は，生後５か月ごろになると，外界のものに手を伸ばす「リーチング」という行動を示すが，盲児の場合，この行動が現れるのは生後１０か月ごろである。なぜ，このように遅れが生じるのか，乳児の知的発達の視点から説明しなさい。

(H28)

例３　白杖歩行について，次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

(1) 白杖歩行におけるタッチテクニックとスライド法を説明しなさい。

(2) 歩行の条件や状況に応じて白杖の操作を使い分けることが重要であるが，スライド法を選択した場合には，どのような利点と欠点があるか書きなさい。

(H28)

例４　次の文を，下の例にならって点字表記に即してカタカナで書き，マスあけする場所に／を挿入して分かち書きしなさい。

幸いにして佐藤さんは昼前に徳島駅に着いたらしい

［例］（問題）　友だちと過ごす

　　　（解答）　トモダチト／スゴス

(H28)

例５　視覚障がいのある児童生徒に対して観察と実験の指導を効果的に行うために，教師はどのような役割を果たす必要があるか。３点述べなさい。

(H28)

例６　次の各文は，特別支援学校小学部・中学部学習指導要領「第２章　各教科」「第１節小学部」「第１款　視覚障害者，聴覚障害者，肢体不自由者又は病弱者である児童に対する教育を行う特別支援学校」「１　視覚障害者である児童に対する教育を行う特別支援学校」に示されている事柄の一部である。(1)・(2)の問いに答えなさい。

(3)　児童の視覚障害の状態等に応じて，指導内容を適切に精選し，基礎的・基本的な事項に重点を置くなどして指導すること。

(1) 指導内容の適切な精選や基礎的・基本的な事項に重点を置いた指導が必要とされるのはなぜか。視覚障がい児の特性にふれながら説明しなさい。

(5)　児童が空間や時間の概念を活用して場の状況や活動の過程等を的確に把握できるよう配慮し，見通しをもって意欲的な学習活動を展開できるようにすること。

(2) 空間概念の形成のためには，児童自身が，身体に関するイメージをもつことが重要である。自己の正しいボディイメージを形成し，身体座標軸が形成されるまでにはどのような指導が必要か書きなさい。

(H28)

例７　次の文は，特別支援学校小学部・中学部学習指導要領「第１章　総則」「第２節　教育課程の編成」「第４　指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」の一部である。（①）～（⑥）にあてはまる語句を書きなさい。

学校の（①）を通じて，個に応じた指導を充実するため，（②）に基づき指導方法や指導体制の工夫改善に努めること。その際，児童又は生徒の障害の状態や学習の進度等を考慮して，個別指導を重視するとともに，（③）や（④）の工夫，それぞれの（⑤）を生かした（⑥）的な指導などにより，学習活動が効果的に行われるようにすること。

(H28)

なお，専門審査には，この専門分野の問題以外に，基礎免許状の問題もあります。

特別支援学校（視覚障がい領域）正答例

<table>
<tr><th colspan="3">問題番号</th><th>正答</th></tr>
<tr><td rowspan="6">例１</td><td rowspan="4">(1)</td><td rowspan="2">①</td><td>杆（桿）体　　　　　　　　（細胞）</td></tr>
<tr><td>（正答例）
暗い所で働き，明暗の認識にかかわる。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">②</td><td>錐体　　　　　　　　　　　（細胞）</td></tr>
<tr><td>（正答例）
明るい所で働き，ものの形や色の認識にかかわる。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">(2)</td><td>(a)</td><td>（正答例）
杆（桿）体細胞の機能が低下するため，暗順応に影響を及ぼし，夜盲が生じる。また，杆（桿）体細胞は，網膜の周辺部に多く分布するため，視野の周辺部が見えなくなる視野狭窄が生じ，周囲の状況を把握することが難しくなる。</td></tr>
<tr><td>(b)</td><td>（正答例）
錐体細胞の機能が低下するため，ものの形や色の認識に影響を及ぼし，視力的低下や色覚異常が起こる。また，錐体細胞は中心窩付近に多く分布するため，視野の中心部が見えなくなる中心暗点が生じ，視力が大きく低下する。</td></tr>
<tr><td colspan="3">例２</td><td>（正答例）
一般に，視覚に障がいのない乳児は，生後５か月ごろに「視覚とものの関係」を結びつけて理解できる知的能力の発達段階でリーチングを行うが，視覚で外界をとらえることが困難な盲児は，生後１０か月ごろの「聴覚とものの関係」を結びつけて理解できる知的能力の発達段階でリーチングの行動が現れるから。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">例３</td><td colspan="2">(1)</td><td>（正答例）
タッチテクニックは，両方の肩幅よりやや広い範囲で，手首を支点に左右均等に弧を描くように白杖を振り，石突で軽く地面を叩きながら歩く方法。
スライド法は，石突を常時地面に触れさせながら左右に振って歩く方法。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">(2)</td><td>利点</td><td>（正答例）
スライド法は，常時地面に石突が触れているため，タッチテクニックでは飛び越えてしまう路面の情報を探知することができる。</td></tr>
<tr><td>欠点</td><td>（正答例）
タイルの凹凸といった路面のごく小さな変化も探知するため，効率性が落ちる。</td></tr>
<tr><td colspan="3">例４</td><td>サイワイニシテ／サトー／サンワ／ヒル／
マエニ／トクシマエキニ／ツイタラシイ</td></tr>
</table>

問題番号		正答
例５		（正答例） 可能な限り実物を用い，難しければ実物を補う意味で模型や標本等を組み合わせるなどして，児童生徒が保有する感覚を活用して行うことができる観察や実験を工夫し，教材化すること。
		（正答例） 児童生徒の発見に対して，さらに深い観察を促す発問をしたり，疑問に対応できる教材を用意したりする等して児童生徒の探究心を引き出しつつ，困難な部分を教師が援助しながらも，全体として児童生徒自身が主体的な観察や実験を行えるようにすること。
		（正答例） 児童生徒が観察したことや発見したことの科学的意義をおさえ，必要最小限の専門用語を用いながら体系だった知識として整理していくこと。
例６	(1)	（正答例） 視覚障がい児にとっては，動いている物や遠くにある物等を，視覚や触覚での直接経験によって理解することは難しいため，児童生徒の視覚障がいの状態等を的確に把握して指導内容を精選する必要がある。 　また，視覚障がい児は，初めての内容を理解することには時間を要しても，一度理解してしまうと，それをもとに予測し，演繹的に推論することによって，その後の発展，応用の学習は，容易にできる場合が多いため，基礎的・基本的理解を促す指導によって内容の本質や法則性を具体的に把握できるようにする。
	(2)	（正答例） 身体各部の位置と名称が対応できるようにする。次に，腕を伸ばす，腕を真上に上げるといった身体運動の基本を体育などと関連づけながらことばと動作を対応させ，身体運動のイメージを育てる。そして，自己の身体を基準として，上下・前後・左右の６方向を認識させ，身体座標軸の形成を図る。
例７	①	教育活動全体
	②	個別の指導計画
	③	授業形態
	④	集団の構成
	⑤	教師の専門性
	⑥	協力